

第2学年1組保健体育学習指導案

指導者 T1 作花好幸
T2 山内結以

1 題材名 応急手当の意義と心肺蘇生

2 題材について

(1) 日常において、けがや病気が発生した時に、その場に居合わせた人が一時的に手当を行うことが必要な場合がある。状況によっては、悪化を防いだりする手当にとどまらず、生命を救ったり、救急車を呼び、医師への引き渡しをしたりする場合もある。緊急の場合、手当の方法や手順がわからず、手当をする側の者がパニックに陥ったり、医師への引き渡しまでの時間に何もできずに過ごしたりする可能性がある。

そういった状況に遭遇した時に、迅速に行動できるように、応急手当や心肺蘇生はどのような手順で、何をすれば適切かを知るために、繰り返し研修をする必要がある。

(2) 本学級の生徒は、男子10名、女子7名、計17名の少人数で、小学校の時からはほぼ同じメンバーで学校生活を過ごした経緯がある。保健体育の授業では男子は集中力に波が見受けられたり、心遣いが足りなかったりする場面も見られる。女子は、日常生活において人間関係のトラブルがあり精神的なつながりに欠けるようだが、保健体育の授業では前向きに取り組むことができる。

応急手当や心肺蘇生について、人工呼吸や胸骨圧迫（心臓マッサージ）、AEDなどの言葉は聞いたことがあるものの、漠然としたイメージを持っている生徒が大半で、その手順や方法を理解している生徒はほとんどいない。また、小学校での履修経験はなく、これらのことについて学習することは初めてである。

(3) そこで指導にあたっては以下の点に留意したい。

- ① 傷病者が大きなけがなどにより心臓や肺が停止したと判断した場合に、自分が救助者となって行うべき正しい手順や方法について具体物を用いて学習させる。
- ② 心肺蘇生の方法やAED（自動体外式除細動器）の使用については、練習用の器材や人形、資料などを使っての実習を通じて、生命に直面した場面を想定して学ばせたい。
- ③ なかま同士で知識の確認や技術のできを互いに指摘や賞賛をさせることで、正しい手順や動きを確実に身に付けさせ、効果的で充実感の持てる活動を目指したい。

3 学習指導目標

- (1) 健康や安全を自分や身近な問題ととらえ、進んで学習する。【健康・安全への関心・意欲・態度】
- (2) 健康を維持・増進させるために、どのような心がけや実践が必要であるか、思考を深める。【健康づくりへの思考力・判断力】
- (3) 日常や緊急時における、健康や安全に対する対処能力や実践能力を高める。【健康・安全に関する技能】
- (4) 何をどのようにすれば、健康や安全を維持したり、対応したりすることができるのかの方法を理解する。【健康・安全に関する知識】

4 学習指導計画・・・・・・・・・・・・・・ 2時間

題材を貫く問い「生死の境をさまよう人をなかまとともに助けることができるか」

- (1) 応急手当の意義・・・・・・・・・・・・ 1時間
- (2) 心肺蘇生法（実習）・・・・・・・・・・・・ 1時間（本時）

5 本時の学習指導

- (1) 心肺蘇生法（実習）
- (2) 目標
 - ① 応急手当（心肺蘇生）の手順、人工呼吸、胸骨圧迫、AEDについて、理解を深めることができる。
 - ② なかまと指摘や賞賛をし合って、充実感を高めながら実習することができる。

(3) 学習指導過程

◎：居場所に関わるもの（UD）、☆：夢中に関わるもの

学習内容及び学習活動	教師の指導上の留意点及び支援の工夫
1 次のことについてT2の話を書く。 ・ 生命と時間について ・ 緊急事態の時には冷静さを失いがちであること ・ 「実習」の意味 ・ 「知る」「する」「できる」について	・ 命の尊さを確認するとともに、人命救助は現代では身近な問題であることを理解させる。 ・ 緊急時の精神状態を想像させ、なぜこの学習が必要であるのかを考えさせる。
死に直面した目の前の人に心肺蘇生をすることができるか ～「知る」「する」「できる」～	
2 次のことに留意しながら、胸骨圧迫を実習する。(T2) ・ 胸を押す手のひらと正しい位置の確認 ・ 押す方向と角度と強さ ・ 圧迫のリズムとカウントの声 ・ 相互チェック表を活用して、友人へのアドバイスや感想を言う。	・ 心臓からの血流を止めないために、できるだけ速やかに着手することが必要であることを理解させる。 ※救急車の到着時間は全国平均8分30秒程度。 ・ テニスボールを使って、動きを確認させる(T2)。5cm以上の胸骨の沈みを意識させる。 ・ 具体的に胸骨圧迫の仕方を見せながら人形を使って説明し、実習させる。
3 次のことに留意しながら、人工呼吸を実習する。(T1) ・ 下顎挙上時の手や指の使い方 ・ 呼吸吹き込み時の速さと「もれ」の確認 ・ 相互チェック表を活用して、友人へのアドバイスや感想を言う。	・ よく失敗する例を実施説明しながら挙げたうえで手の使い方を理解させる。 ・ 死戦期呼吸等、通常呼吸でない呼吸の時にも人工呼吸や胸骨圧迫が必要であることを説明する。
4 胸骨圧迫と人工呼吸の併用について実習する。(T1)	・ 胸骨圧迫30回＋人工呼吸2回を理解させる。 ・ 巡回指導により、正しい手順や方法を個別指導しながら賞賛をする。
5 AEDについて知り、実習により体験する。(T2) (1) AEDについて (2) 使用時の留意事項について	☆ AEDのアナウンスに従って行動すればよいが、項目ごとに留意が必要であることがあることを説明する。
評価【心肺蘇生の技能が高まる】 B ：心肺蘇生法の手順や方法を知ったうえでその技能を身につけようとすることができる。 C ：個別指導により、課題をわかりやすい表現で伝え、具体的なポイントを示して練習させる。	
6 本時のまとめをする。(T1) ・ 心肺蘇生の重要性 ・ 成功や失敗例の振り返り ・ なかまとの関わりについて	・ いざという時を想定して、学校でのAEDの設置場所の確認をさせ、本時を振り返らせる。 ◎ 実習で発見できた友人やグループの良さや課題、友人との関わり方について評価させる。(T1)